2025年３月発行
印 刷　東海大学医学部付属病院

ここでは、外来化学療法室で主に行われている治療であるアテゾリズマブ(テセントリク®)＋ベバシズマブ(アバスチン®)併用療法、デュルバルマブ(イミフィンジ®)＋トレメリムマブ(イジュド®)併用療法についてご紹介します。

アテゾリズマブ(テセントリク®)＋ベバシズマブ(アバスチン®)併用療法は、患者さん自身の免疫ががん細胞を攻撃する力を保つ薬剤(免疫チェックポイント阻害薬)であるアテゾリズマブ(テセントリク®)と、がん細胞が酸素や栄養を得るための血管を新たに作り出すのを防ぐ薬剤(血管新生阻害薬)であるベバシズマブ(アバスチン®)を組み合わせた治療です。点滴は3週間おきで、投与時間は最長2時間半～最短1時間程度と投与回数によって異なります。

デュルバルマブ(イミフィンジ®)＋トレメリムマブ(イジュド®)併用療法は、免疫チェックポイント阻害薬を2種類組み合わせた治療です。点滴は4週間おきで、最初の1回のみデュルバルマブ(イミフィンジ®)とトレメリムマブ(イジュド®)の両方を2時間程度で点滴し、それ以降は1時間程度のデュルバルマブ(イミフィンジ®)の点滴を繰り返す形となります。

免疫チェックポイント阻害薬は、免疫関連有害事象(irAE)と呼ばれる特殊な副作用があることが知られています。免疫が過剰に働いてしまうことで、正常な組織や臓器を障害するものです。発症の時期や症状は様々ですが、稀に重篤なものが起こることがあるため、日々の体調確認と「あれ？」「おかしいな？」と感じた際の早めの相談・受診が重要です。

血管新生阻害薬であるベバシズマブ(アバスチン®)の主な副作用は、高血圧、粘膜からの出血(鼻血、歯肉出血など)、蛋白尿です。稀に起こる重篤なものとしては、腸などに穴が開いてしまう消化管穿孔や傷が治りにくくなる創傷治癒遅延、動脈・静脈に血の塊ができて血管が詰まってしまう血栓塞栓症などがあります。ご自宅で定期的に血圧を測定し記録しておく、鼻を強くかまない、強い力で歯磨きをしないなどの工夫が大切です。

外来化学療法室では、がん薬物療法を受ける患者さんやご家族が安心して治療を継続できるよう、治療の副作用やご自宅での対応方法、日常生活やお仕事での困りごとなどについて専門の看護師がご相談を承っています。飲み薬のみで治療をされている患者さんやご家族のご相談も可能です。ご希望の方は、第4診療センターの看護師までお申し出ください。

《著者紹介》

中村　友香（なかむら ゆか）

東海大学医学部付属病院　看護部　看護外来
外来化学療法室　専任看護師
がん化学療法看護認定看護師